

南下古墳群(北群馬郡吉岡町)

南下古墳群の配置図/6世紀後半から7世紀末の古墳群で、南下古墳公園にはA~F号古墳の6基が保存されている/すぐ傍に吉岡町文化財センターが併設されている



南下古墳群についての説明板などが立っている

 video



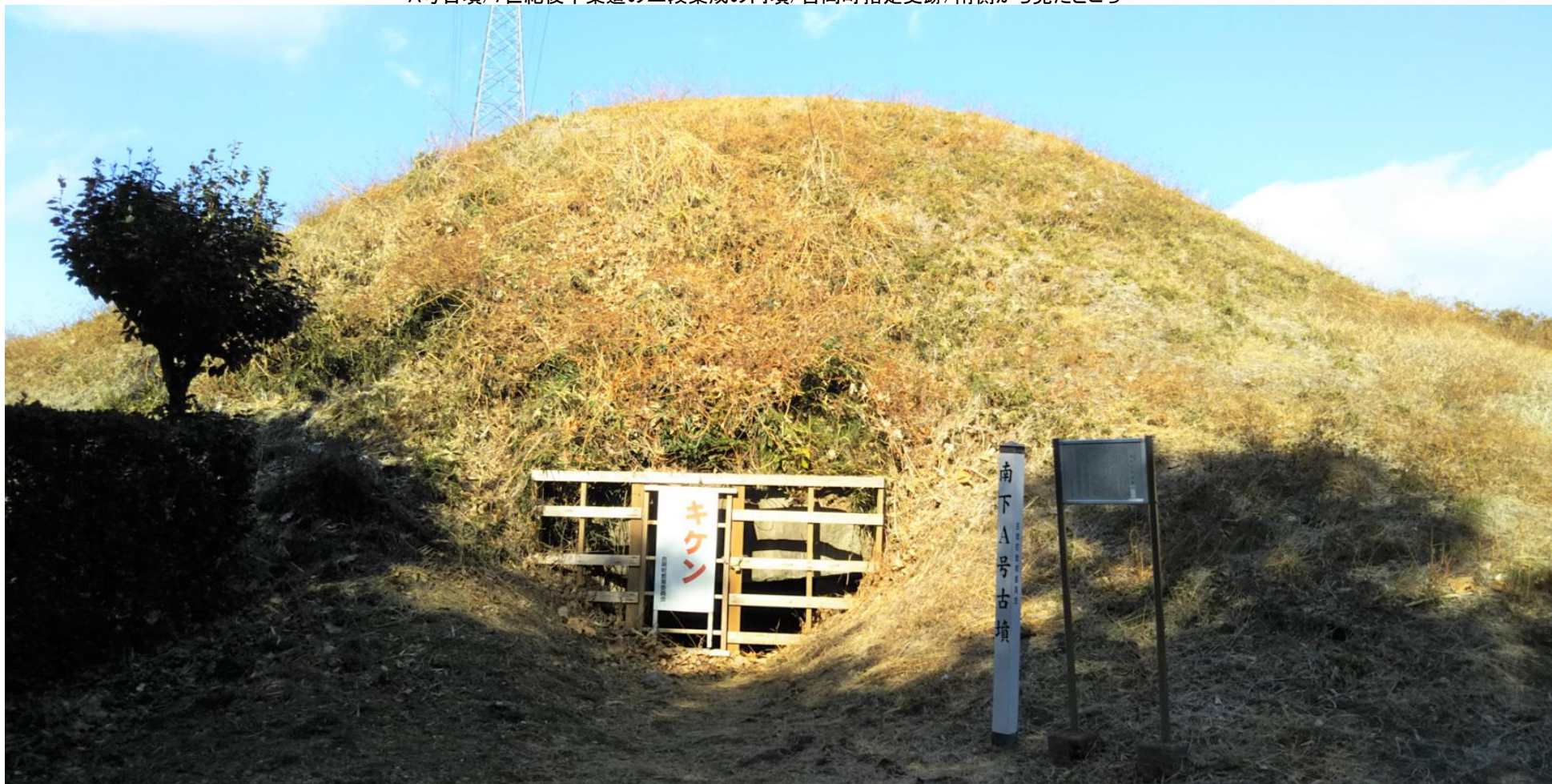
南下古墳群は、吉岡町の南下から大久保の溝祭地区にかけて分布する古墳の総称です。一般的には、吉岡中学校南方の大林山と呼ばれる丘陵上に集中する、A～E号の古墳に代表されています。

かつて吉岡町には400基を超える古墳があり、その内100基ほどが南下地域に存在していました。この大林山にも40基ほどの古墳が集中していましたが、現在残るのはA～E号の5基を含めても僅か9基ほどです。これらは、古墳時代後期の6世紀後半から7世紀にかけての約100年間に集中して築かれたもので、全て横穴式石室を主体部としています。

本古墳群中のA～E号の古墳は、全て開口しているので石室内部をつぶさに観察することができます。石室は、自然石だけで構築したものや一部に切石を混えたもの、或いは切石を組合わせたものなど様々で、その発展過程や構造の違い等を見ることができる大変貴重なものです。

A号古墳

A号古墳/7世紀後半築造の二段築成の円墳/吉岡町指定史跡/南側から見たところ



町指定史跡

みなみしも
南下A号古墳



南下A号古墳 動画
QRコードを読み込む
ご覧いただけます。

本古墳の所在する丘陵にはかつて四〇基を越える古墳があり、町内でも有数の古墳群を形成していた。しかし、時代の波とともにその数は減少し、今は僅か九基を残すのみになっている。これらは南下古墳群として県内外に知られ、本古墳とB号古墳の二基は町史跡に指定されている。九基の内五基の古墳は開口し、石室の構造や石材の利用法等の違いを見るのに適している。

本古墳は、陣場岩屑流と呼ばれる流山の南斜面中腹に構築された山寄せ形式の古墳である。墳丘は二段構築で、非常に丈が高い円墳と推定されている。墳丘の規模は径二〇～二七m、高さ約四mである。葺石及び埴輪の有無は明らかでないが、埴輪についてはその破片すら発見されておらず存在しない可能性が高い。周溝等外部施設については発掘調査をへていない現在不明と言わざるをえない。

石室は真南に開口する横穴式両袖型石室で、截石切組積の手法を駆使した極めて精巧で美しいものである。石材には主に角閃石安山岩を用い角は全て直角に加工し、随所に切組の手法を取り入れている。羨道と玄室の境に据えられた玄門及び冠石の加工技術の優秀さはその水準の高さを物語っている。玄室の壁面は最終的に漆喰で塗込められていたらしく所々にその痕跡を残している。石室の規模は羨道長三・二五m、幅一・五八m、高さ一・五五m、玄室長三・二五m、幅二・四m、高さ二・四mである。

近年玄室及び羨道の壁面に石材加工、壁体構成の際の作業線と推定される朱線が発見され注目されている。朱線については本古墳の北約六〇mに所在するE号古墳にも発見されている。

本古墳は古い開口のため年代の手がかりとなる出土遺物の所在は明らかでないが、石室の構造及び企画、また石材の加工法等から七世紀末葉の古墳と推定されている。

平成六年九月一日

吉岡町教育委員会

石室を見よう



截石切組積の両袖型横穴式石室で、羨道と玄室の境には玄門が見える/壁面には石材加工時の赤色作業線や、漆喰の痕跡があると云う



北側から見たところ



東側から見たところ/「山寄せ形式」の古墳であるのが見て取れる



B号古墳

B号古墳/7世紀中頃築造の「山寄せ形式」の円墳/吉岡町指定史跡/南東側から見たところ



南側から見たところ





町指定史跡

みなみ しも

南下B号古墳



南下B号古墳 動
QRコードを読み込む
ご覧いただけます。

本古墳は、相馬山の山体崩壊による流山とみられる丘陵上に形成された古墳群の内の一基で、周辺には本古墳を含め九基の古墳が存在している。本古墳はこの丘陵端部の南斜面中復に山寄せされた円墳と考えられている。

墳丘規模は未調査のため明確でないが、石室前の町道南まで及んでいる可能性があり、径にして約30m、高さは約6mと推定されている。墳丘における葺石、埴輪の設置、また周溝等の外部施設の存在については現在明らかでない。

石室は主に自然石を乱石積した横穴式両袖型石室だが、玄室の壁面に一部削石を用いたり切組の手法を取り入れたりした部分が見られる。また、羨道と玄室の境にはみごとに加工された重量感のある玄門が据えられている。一方の玄門上部には冠石を受けるための切り込みがつけられている。壁体の石材は腰の高さまで垂直に積まれるが、その上は大きく内側に転び天井の幅を著しく狭めている。壁面は歪みや食い違いのため整正さに欠け、やや不安定な感じをうける。石材どうしの隙間には漆喰を塗込めていたらしくその痕跡をよく残している。石室の規模は羨道が長さ3・七4m、幅一・四0m、高さ一・二0m、玄室が長さ三・四五m、幅二・五m、高さ3mあり羨道に比べ玄室の天井が極端に高い。このため羨道をくぐって玄室に入ると広々とした大きな空間に出た感じがする。

出土品については古い開口のため所在は全く判っていない。

古墳の年代は、石室構造や石材の加工技術からみてA・E号古墳に先行する時期と考えられ、七世紀中頃の築造と推定されている。

平成六年九月一日

吉岡町教育委員会

中を少しだけ覗いて見よう



自然石乱石積の両袖型横穴式石室/玄門や奥壁の一部に截石を用いている/壁石に粘土を詰めた痕が認められ、石室の規模に対して天井が高く、畿内色の強い古墳と云う



C号古墳

C号古墳/6世紀中葉から後半頃築造の円墳/南下古墳群では最も古い古墳と推定されている/吉岡町指定史跡/南東側から見たところ

[video](#)







墳丘周辺から円筒埴輪の破片が採集されていると記されている

みなみしも
南下C号古墳



南下C号古墳 動画
QRコードを読み込んで
ご覧いただけます。
※要ネット環境です。

丘陵頂部に築かれた径約十五m、高さ約四mの円墳と推定される。葺石や周堀の有無は明らかでない。古墳周辺から円筒埴輪の破片が採集されているため、埴輪が設置されていると推定される。

石室は自然石乱石積の袖無型で、全長約六・一五m、奥壁幅約一・五八m、同高さ約一・三六mの規模を有する。開口部は東向きで、珍しい例である。古い開口のため副葬品については全く不明である。

古墳の年代は、本古墳群では古い時期のもので、六世紀の中葉から後半の築造と推定される。

平成二十二年三月

吉岡町教育委員会

自然石乱石積の無袖型横穴式石室で、東向きに開口する珍しい例とされる













北東側から見たところ

 [video](#)



北側から見たところ

 video



D号古墳

D号古墳/7世紀前半頃築造の円墳/形状は不明と云う/吉岡町指定史跡/南東側から見たところ





南下D号古墳


南下D号古墳
（南下D号古墳）
この古墳は、南下D号古墳として知られており、その歴史や特徴について詳しく説明されています。

みなみしも 南下D号古墳



丘陵南斜面に築かれた古墳だが、墳頂部が著しく削平されているため形状は明らかでない。現存規模は、径約十三m、高さは三m程である。墳丘に葺石や埴輪は確認されていない。

石室は山石と川原石を混用した乱石積で、南西方向に開口する。石室全長約五・六三m、玄室幅約一・五m、同高さ約一・五mの規模を有する。

羨道と玄室の境には  段に積んだ玄門が存在する。羨道入口付近には、石室を閉じた際の閉塞石が残っている。

古墳の築造年代は、七世紀前半頃と推定される。

山石と川原石を混用した乱石積の横穴式石室で、南西方向に開口している/羨道と玄室の境には一、二段に積んだ玄門があると云う



東側から見たところ



墳頂に登って見たところ



E号古墳

E号古墳/7世紀末頃築造の「山寄せ形式」の円墳または方墳/吉岡町指定史跡/南東側から見たところ





南下E号古墳

立入禁止

南下E号古墳
この古墳は、南下E号古墳と推定され、古墳時代の前期から中期にかけてのものと見られる。墳形は円墳で、直径約10メートル、高さ約2メートルと推定される。墳丘の表面は、草や雑草で覆われており、周囲は畑や田んぼに囲まれている。古墳の周囲には、石垣や石積みなどの遺構が見られる。この古墳は、南下E号古墳と推定され、古墳時代の前期から中期にかけてのものと見られる。墳形は円墳で、直径約10メートル、高さ約2メートルと推定される。墳丘の表面は、草や雑草で覆われており、周囲は畑や田んぼに囲まれている。古墳の周囲には、石垣や石積みなどの遺構が見られる。

みなみ しも 南下E号古墳



南下E号古墳 動画
QRコードを読み込むと
ご覧いただけます。

本古墳の所在する丘陵は、一三、〇〇〇年程前に相馬山が山体崩壊を起こした際の流山（陣場岩屑流）と考えられている。この丘陵上を中心に付近一帯にはかつて四〇基を越える古墳が存在し、七世紀代を中心とする一大古墳群を形成していた。現在その数は一〇基程にまで激減しているが、本古墳から半径約一〇〇mの内に七基の古墳が群集し、当時の面影を僅かながらも残している。

本古墳は先の丘陵東南斜面に構築された山寄せ形式のものである。墳形及び規模は、現状で東西約一七m、南北約九m、高さ約二mの円墳もしくは方墳と考えられている。墳丘における葺石の有無は不明だが、埴輪片は一片たりとも確認されていない。

石室は、葺石切組積の両袖型石室で、南西に向かって開口している。玄室はほぼ完全であるが、羨道部分は天井石を失い側壁も上部を欠いた状態で、大半は土砂で埋没している。石室構造から見て、古墳南面には前庭が存在する可能性が高い。現状での石室規模は、玄室長二・七六m、同奥壁幅二・一三m、高さは奥壁部分で一・七一mである。

石室石材は壁体に二ツ岳噴出の角閃石安山岩を使用し、天井石には硬質の安山岩自然石を用いている。側壁は長方形に加工した石材を四乃至五段に、奥壁は三乃至四段に積み上げ、その大部分に切組の手法を用いている。壁面には一〇度前後内傾する、所謂転びが見られる。玄室と羨道の境には加工石材を二段積みにした精巧な玄門を有している。

本古墳で特筆すべきことは玄室壁面に残った朱線の存在である。これは、葺石切組の工法と関連した作業線と考えられるもので、本古墳のほか南下A号古墳、富士見村上庄司原4号古墳でのみ確認された極めて例の少ないものである。

古墳の年代は、石室の企画や構造或いは石材の加工法等から見て、七世紀末葉の築造で、南下A号古墳より若干新しい時期のものと考えられる。

平成八年三月三十一日

精緻な截石切組積の両袖型横穴式石室で、南西に開口している/石材加工技術はA号古墳より進んだもので、石材加工の赤色作業線が数多く残っていると云う



南西側から見たところ



F号古墳

F号古墳(大林1号古墳)/築造時期不明の円墳/吉岡町指定史跡/北西側から見たところ

 [video](#)





みなみしも 南下F号古墳

本古墳の正式名称は大林一号古墳だが、他の古墳との関係から便宜上F号古墳と呼んでいる。

墳丘は、丘陵先端近くの南斜面に構築された円墳と推定されるが、南側が道路拡幅工事で削られやや歪んでいる。墳丘に葺石ふきいしや埴輪はにわの設置があったかは明らかでない。墳丘は、現状で径約二十一m、高さ約四・五mの規模を有している。道路拡幅工事の際、巨石を除去したとの話が伝わっているので、横穴式石室が設置されていたと考えられる。

古墳の築造年代や副葬品など詳細は明らかでない。

平成二十二年三月

吉岡町教育委員会

主体部は横穴式石室であったようだ

北東側から見たところ

 video



南東側から見たところ

 video



南西側から見たところ



さて、ここは隣接する吉岡町文化財センター



中には様々な展示がされていた



吉岡町の古墳分布

はるなさんろく ぜんぼうこうえんふん
榛名山麓にはいくつかの前方後円墳があり、吉岡町でもおおやぶしろやまこふん
大藪城山古墳がみつかっています。このほかにも町内には円墳が分布していることから、古墳時代には力のある豪族が住み、水田や畑が開墾されていたことが分かるのです。それらの中には、南下
きりいしきりくみづ
古墳群のように截石切組積みで石室がつけられたものもあります。

截石切組積みの石室

現在の南下には、6世紀後半から7世紀にかけての6基の円墳が残されています。そのうちの3基は7世紀に造られた截石切組積みの石室です。截石とは立方体に加工された石のことで、それを積み上げて石

室を造ります。切組とは、石を積んだ時に隣どうしを切り込んで調整した技術のことです。A号墳とE号墳には、その作業の目安として引いた朱線が残っています。

新しい古墳の意味

前方後円墳は外見の立派さを意識したのですが、7世紀の飛鳥時代になると政治体制の変化とともに、簡素な円墳へと変化していきます。しかし、外からは見えない石室の構築技術は精緻なものになりました。南下古墳群のうち7世紀に造られたA号墳の石室には、漆喰が塗られていたことも分かっています。

この時期、この手の展示も多い

 video



吉岡町の 疫病・わざわい祓いの文化財



薬師如来

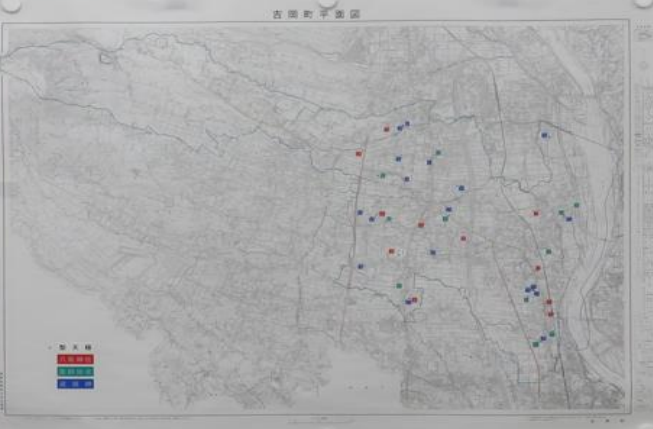
人々が病氣や災しから逃れられるようにと「十二の天羅」（十二箇のお願い）を立てたことから、万病を癒し、寿命を益し復業を可る仏として庶民の間で信仰されました。左手に薬壺を持った姿で表され、特に目の病を治すご利益があります。

病が治るようお願いをし、治ったら小さな石仏をお返しする風習があります。そのため、薬師如来の石堂には、小さな石仏がたくさん置いてあります。

『日本書紀拾遺』藤山 著

吉岡でも、『やんば（あっぱ）になったら「め」の字を頭に書いて薬師様へ納めれば直る』という話があり、薬師如来は主に目の病を治す仏として信仰されています。

名称	所在地	備考
薬師堂	吉岡町 吉岡	薬師如来の石堂
...



八坂神社

最初に鎮座が行われる吉岡の八坂神社は全国の3000の八坂神社・八坂社・八坂社・天王社の総称です。昔年の呼び名は明治時代の終りに八坂神社と改称されましたが、今でも古の呼び名で記しているところもあります。夏に行われる祓霊祭は、吉岡郡で疫病が流行り疫病除けを願って行われた祭りです。

祭神 美濃鳴尊（中津天皇と同一視されています。)

●中津天皇（武埴天神）と美濃鳴尊
中津天皇は産孫系の神様といわれています。日本でも天皇様と呼ばれ信仰の対象となっています。中津天皇は武埴天神ともいい、日本の『新編風土記』の神話では、武埴天神は美濃鳴尊と同一視されています。また、武埴天神は「蘇我持統」の逸話「葦の輪くぐりの由來」を参照し、などから疫病除けのご利益があるといわれています。

『日本の神話と歴史』初巻 著

名称	所在地	備考
八坂神社	吉岡町 吉岡	八坂神社
...



参考ホームページ

<http://www.net.yoshioka.ed.jp/%E6%8C%87%E5%AE%9A%E6%96%87%E5%8C%96%E8%B2%A1/%E5%8D%97%E4%B8%8B%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4/>

<https://kofun.info/kofun/1079>

<https://history.midoriit.com/2011/11/%E5%8D%97%E4%B8%8B%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kofun-sub/kf-minamisimo.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/yoshioka/minae.htm>

<http://homepage.obunko.com/iseki/kohun/minamishimo.htm>

<http://kofuntokaare.main.jp/4goufun/page049.html>

<https://ankenna.blog.fc2.com/blog-entry-405.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12389324423.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12389899176.html>

